

沼津工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	電磁気学
科目基礎情報					
科目番号	2018-448		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	制御情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	電磁気学 前田和茂・小林俊雄 共著 森北出版、プリント (適宜配布する)				
担当教員	芹澤 弘秀				
到達目標					
1. ベクトルに関する基本的な計算ができる。 2. 電場と電位の知識を利用して、静電場に関する基本的な問題を解くことができる。 3. 電流と磁場の知識を利用して、静磁場と変動磁場に関する基本的な問題を解くことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1. ベクトルに関する基本的な計算ができる。	ベクトルの基礎を十分に理解しており、ベクトルに関する応用的な計算ができる。	ベクトルの基礎を理解しており、ベクトルに関する基本的な計算ができる。	ベクトルの基礎が理解できておらず、ベクトルに関する基本的な計算ができない。		
2. 電場と電位の知識を利用して、静電場に関する基本的な問題を解くことができる。	電場と電位の基礎を十分に理解しており、それらの知識を利用して、静電場に関する応用的な問題を解くことができる。	電場と電位の基礎を理解しており、それらの知識を利用して、静電場に関する基本的な問題を解くことができる。	電場と電位の基礎を理解しておらず、静電場に関する基本的な問題を解くことができない。		
3. 電流と磁場の知識を利用して、静磁場と変動磁場に関する基本的な問題を解くことができる。	電流と磁場の基礎を十分に理解しており、それらの知識を利用して、静磁場と変動磁場に関する応用的な問題を解くことができる。	電流と磁場の基礎を理解しており、それらの知識を利用して、静磁場と変動磁場に関する基本的な問題を解くことができる。	電流と磁場の基礎を理解しておらず、静磁場と変動磁場に関する基本的な問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
【本校学習・教育目標 (本科のみ)】 2					
教育方法等					
概要	今日、電気磁気現象はあらゆる分野に応用されており、電磁気学の知識は必要不可欠なものとなっている。特にエネルギー・情報・通信・制御などの工学分野において、研究・開発・設計などに携わる技術者になるためには、電磁現象の定量的表現に習熟し、システムを構成する要素の電磁的特性を把握しその動作原理を理解することが要求される。本講義では、そのために必要となる電磁現象の諸法則とそれを扱うための数学的手法 (ベクトル解析) を、詳細にかつ平易に解説し、1年をかけて電磁界の基本式であるマクスウェルの方程式を導く。				
授業の進め方・方法	授業は講義形式で行い、適宜レポート課題を課す。				
注意点	1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 3. 前期中間試験を15%、前期末試験を20%、後期中間試験を20%、後期末試験を20%、課題レポートを20%、授業態度 (ノート検査等) を5%の重みとして成績評価を行う。60点以上を合格とする。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、ベクトルの基礎	ガイダンス、ベクトルの和と差、ベクトルの成分表記	
		2週	ベクトル解析 1	ベクトルの代数 (内積と外積の基礎)	
		3週	ベクトル解析 2	ベクトルの代数 (内積と外積の応用)	
		4週	ベクトル解析 3	スカラー場の勾配 (意味と例題)	
		5週	ベクトル解析 4	ベクトル場の発散 (意味と例題)	
		6週	ベクトル解析 5	ベクトル場の回転 (意味と例題)	
		7週	ベクトル解析 6	線積分、面積分、体積分	
		8週	ベクトル解析 7	ガウスの発散定理	
	2ndQ	9週	ベクトル解析 8	ストークスの定理	
		10週	静電場 1	クーロンの法則と電場	
		11週	静電場 2	電位と保存場	
		12週	静電場 3	ガウスの法則	
		13週	静電場 4	ガウスの法則 (応用)	
		14週	静電場 5	双極子による電場	
		15週	静電場 6	多重極による電場	
		16週			
後期	3rdQ	1週	導体系の静電場 1	導体表面の電場の性質	
		2週	導体系の静電場 2	導体内の空洞の電場、静電容量	
		3週	導体系の静電場 3	電位係数、静電遮蔽	
		4週	誘電体 1	誘電体の性質	
		5週	誘電体 2	誘電体中の静電場	
		6週	電流と静磁場 1	電流密度、電流・電荷の連続の式	
	4thQ	7週	電流と静磁場 2	アンペールの力の法則、ローレンツ力	
		8週	電流と静磁場 3	ビオ・サバールの法則	
		9週	電流と静磁場 4	ビオ・サバールの法則 (応用)	
		10週	電流と静磁場 5	アンペールの周回積分の法則	
		11週	電流と静磁場 6	アンペールの周回積分の法則 (応用)	
		12週	電流と静磁場 7	ベクトルポテンシャル、磁性体	

	13週	電磁誘導 1	ファラデーの電磁誘導の法則
	14週	電磁誘導 2	ファラデーの電磁誘導の法則（応用）、インダクタンス
	15週	電磁場	マクスウェル方程式
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	電気	導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。	3	
				電場・電位について説明できる。	3	
				クーロンの法則が説明できる。	3	
				クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気を求めることができる。	3	
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	電磁気	電荷及びクーロンの法則を説明でき、点電荷に働く力等を計算できる。	4	
				電界、電位、電気力線、電束を説明でき、これらを用いた計算ができる。	3	
				ガウスの法則を説明でき、電界の計算に用いることができる。	3	
				導体の性質を説明でき、導体表面の電荷密度や電界などを計算できる。	3	
				誘電体と分極及び電束密度を説明できる。	3	
				静電容量を説明でき、平行平板コンデンサ等の静電容量を計算できる。	3	
				コンデンサの直列接続、並列接続を説明し、その合成静電容量を計算できる。	3	
				静電エネルギーを説明できる。	3	
				電流が作る磁界をビオ・サバルの法則を用いて計算できる。	3	
				電流が作る磁界をアンペールの法則を用いて計算できる。	3	
				磁界中の電流に作用する力を説明できる。	3	
				ローレンツ力を説明できる。	3	
				電磁誘導を説明でき、誘導起電力を計算できる。	3	
				自己誘導と相互誘導を説明できる。	3	
自己インダクタンス及び相互インダクタンスを求めることができる。	3					

評価割合

	前期中間試験	前期末試験	後期中間試験	学年末試験	課題レポート	授業態度	合計
総合評価割合	15	20	20	20	20	5	100
基礎的能力	15	0	0	0	20	5	40
専門的能力	0	20	20	20	0	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0